

神奈川県協同組合連絡協議会

かながわC☺-ネット会員組織 御中

2020年8月3日

かながわC☺-ネット幹事組織代表者会議にて かながわC☺-ネットの「2020年度計画」が決定しました！

7月30日（木）に「幹事組織代表者会議」を開催しました。例年、幹事組織代表者の方々にお集まりいただき開催してまいりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、書面議決書による議決権行使を基本とし、当日はかながわC☺-ネットの事務局である神奈川県生活協同組合連合会・JA神奈川県中央会の二者によるWeb会議にて開催いたしました。幹事組織の皆様におかれましては、感染症拡大予防にご協力いただきありがとうございました。

書面議決書については、すべての幹事組織から全協議事項に賛成をいただき、役員の選任、2020年度（2020年7月1日～2021年6月30日）活動計画、「かながわC☺-ネット通信」配信先の拡大等を決定いたしました。別紙に2019年度活動報告・2020年度活動計画他を抜粋し、添付しておりますのでご覧いただければと思います。

○幹事組織代表者会議 報告・協議事項

- （１）会員の状況について
- （２）役員の選任について
- （３）2019年度活動報告及び収支決算の承認について
- （４）2020年度活動計画及び収支予算について
- （５）「かながわC☺-ネット通信」配信先の拡大について
- （６）その他

○役員の選任結果

代 表・神奈川県生活協同組合連合会代表理事会長
・神奈川県農業協同組合中央会代表理事会長
監 事・神奈川県漁業協同組合連合会代表理事専務
・日本労働者協同組合連合会センター事業団神奈川事業本部部長



画面越しに生協連と会議を行う JA 神奈川県中央会

當 具 伸 一（再任）
大 川 良 一（新任）
鵜 飼 俊 行（再任）
尾 添 良 師（再任）

また、7/31時点のC☺-ネット会員名簿を別紙のとおり送付させていただきます。今後の協同組合間での連携の際にご活用いただければと思います。

新型コロナウイルス感染症に負けない！ ～JAとフードバンク等が連携した取り組み～

新型コロナウイルス感染症については、感染者数が全国的に増加傾向にあり、社会的な不安はまだまだ払拭できていません。そのような中、かながわC☺-ネット会員である県内のJAとフードバンク等が連携した取り組みをご紹介します。

（１）JAセレサ川崎

JAセレサ川崎は6月中旬、公益社団法人フードバンクかながわとフードバンクかわさきにジャガイモを寄付しました。今回寄付したジャガイモは、JAと川崎市が協力して実施している収穫体験で使用する予定だったもの。新型コロナウイルス感染症の影響で当初予定していた収穫体験が中止となってしまう、活用先を検討していた中で、「コロナの影響で、苦しんでいる市民の支えになれば」と寄付を申し出られました。

フードバンクかながわは「コロナ禍で食材を希望する申し出が例年の3倍ほどある中で、このような寄付は大変ありがたい」と感謝され、JAセレサ川崎としても「せっかくなので農産物を無駄にせず、寄付という形で地域に貢献できてよかった」とのこと。

(2) J A 横浜

J A 横浜女性部の執行部は7月上旬、フードバンクかながわで体験研修を行いました。フードバンクの活動内容に理解を深め、フードドライブで集まった食品の仕分けを体験。併せて J A 管内全 30 支部からの食品と寄付金を贈りました。

この取り組みは、女性部活動が自粛される中、地域の「たすけあい」、「支え合い」、「分かち合い」、相互扶助として社会づくりに貢献したいとの女性部の思いで実現しました。

その後行われた女性部役員会では、体験研修の成果と現状の厳しさを踏まえ、今後も支援の継続を図ることで一致しました。「『もったいない』の考えは農家の暮らしでは昔からあり、フードバンクの活動に賛同できるので、今後も支援に努めたい」とのことでした。

新型コロナウイルス感染症という危機をむしろきっかけとして、地域での結束が高まった2つの事例をご紹介します。

フードバンクかながわより米寄付のお願い

フードバンクかながわでは家庭にある食べきれない食品をフードバンクに持ち寄り、ひとり親世帯や学生など食支援が必要な方を支援しています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、食べることに困っている方が多くいた影響で、今年は4～6月で昨年の2.5倍にあたる10トンのお米を提供しましたが、ニーズはさらに増え、お米が足りていない実情があります。

そこで、フードバンクかながわでは「Oh 米こめクラブ」(特にお米の寄付をお願いする取り組み)への協力を呼びかけています。

お米は玄米でも精米でも、親戚等からの頂き物で販売用の袋に入っていなくても構わないとのこと。余っているお米がありましたら、フードバンクかながわへご協力いただければと思います。詳細は別紙または H P を参照願います。

フードバンクかながわ H P : <https://fb-kanagawa.com/index.html>

かながわ生き活き市民基金「新型コロナ対応 緊急応援助成」プログラム 第2次助成結果および引き続きの募集のお知らせ

公益財団法人「かながわ生き活き市民基金」が実施する標記プログラムは、同基金の「福祉たすけあい基金積立金」と「新型コロナ対応緊急応援助成」の趣旨に賛同くださる団体・個人からの寄付を原資とし、県内に事務所を置く非営利団体の活動を助成するものです。当通信 No.63 では第1次助成結果をお伝えしましたが、6/15 を締切とした第2次助成では、44 団体に総額約 400 万円が助成されました。

<第2次助成団体一覧>

■横浜市：一般社団法人みんなのレモネードの会、NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ協会、フードバンク浜っ子南、特定非営利活動法人アスリード、平安・ふれあい食堂、NPO 法人 DV 対策センター、ラフェリーチェ、キッズカフェ杉田、特定非営利活動法人ひだまりの森、ブラジル solidário 横浜、NPO 法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ、Art Lab Ova (アートラボ・オーバ)、リンパ浮腫ネットワークジャパン、みんなではん ■川崎市：マリアンナ乳がん体験者の会 マリアリボン ■相模原市：NPO 法人サテラ、あさみぞみんなのコミュニティ、フードコミュニティ ■座間市：NPO 法人ワンエイド ■横須賀市：NPO 法人ファミリア、新型コロナウイルス関連支援プロジェクトよこすか実行委員会 ■葉山町：ユニバーサル絵本ライブラリー UniLeaf ■逗子市：CoCoLo の会 ■鎌倉市：コミュニティカフェ 6 丁目クラブ ■藤沢市：合同会社蔵まえ、育ちあい広場とてとて、ドリームセンター こどもカフェ、NPO 法人湘南食育ラボ、NPO 法人湘南まぜこぜ計画、NPO 法人湘南 DV サポートセンター、医療生協かながわ瞳班、一般社団法人湘南学校教育研究所、NPO 法人ドリームエナジープロジェクト、ホームスクーリングで輝く未来タウンプロジェクト ■茅ヶ崎市：TIE トマトの会、NPO 法人ワーコレたんぽぽひろば、幸町こども食堂おいしいね ■平塚市：子ども学習支援グループ須賀の寺子屋、親と子の寺子屋ふれあい自遊塾、NPO 法人しえんのまなび舎 ■二宮町：にのみやこども食堂便 ■中井町：NPO 法人子育ての輪 Lei ■小田原市：たすけあい、認定 NPO 法人アール・ド・ヴィーヴル

<新型コロナ対応緊急応援助成に協力した法人> (2020 年 7 月 6 日現在)

共生食品(株)、神奈川県農業協同組合中央会、川崎医療生活協同組合、(株)カジノヤ、ワーカーズコレクティブゆいゆい、ワーカーズ・コレクティブ・キャリア、(株)ニッコー、生活協同組合ユーコープ、神奈川県生活協同組合連合会、企業組合エコアド、(株)ウエルライフ、(株)マルモ青木味噌醤油醸造場、(株)しむら、(株)オルタフーズ、神奈川県地方自治研究センター、(株)佐藤印刷所、神奈川県地域労働文化事業団、オルタスクエア株式会社、(株)太陽ネットワーク物流、ワーカーズ・コレクティブメロディー、参加型システム研究所、ワーカーズ・コレクティブ心、(株)創土社、WE21 ジャパン都筑、生活クラブ緑モモンズ、ワーカーズコレクティブれいんぼう

生き活き市民基金では引き続き 8/31 まで寄付を募集しています。H P もご確認ください。

参加募集

第3回「社会的連帯経済×協同労働」研究会

8月8日（土）オンライン開催！

一般社団法人 協同総合研究所主催「社会的連帯経済×協同労働」研究会の第3回が開催されます。日本国内における社会的連帯経済のモデルとも 言える2つの地域（相模原市藤野、箕面市北芝の実践にスポットを当て、具体的な実践を通して社会的連帯経済の実装化を展望していく内容となっております。

今回の研究会はオンラインによる開催で、参加費は無料です。お気軽に参加されてみてはいかがでしょうか。詳細は別紙を参照願います。

日時：2020年8月8日（土）13:30～16:30

場所：オンライン開催（参加希望者にアクセス情報が送付されます）

参加費：無料



申し込みリンク

★★C o - ネット会員間での連携事例のご報告★★

☆相模の鮎塩焼き実演販売が大盛況！

ＪＡ×漁協×内水面漁連のトリプルコラボ再び！☆

当通信 No.63（6月23日付）でＪＡよこすか葉山×長井町漁協×県内水面漁連のトリプルコラボにより、「すかなごっそ・さかな館」での鮎商品の販売を行っているご紹介いたしました。

去る7/5（土）には、販促イベントとして「相模の鮎塩焼き実演販売」が行われ、あいにくの雨にもかかわらず、40分ほどかけてじっくり炭火で焼いた鮎約300匹が完売したとのことです。



あゆ種苗センタースタッフ・
地元漁師の方々

☆ＪＡさがみ・県漁連のコラボ！

農協直売所で海産物の販売開始☆

ＪＡさがみと県漁連の連携によりＪＡさがみの直売所である「グリーンセンター綾瀬」にて3月より海産物の販売が始まっています。

実はこのコラボ、グリーンセンター綾瀬の店長がC o - ネット主催行事である「地産地消学習会」に参加された際に県漁連役員と意見交換したことがきっかけとのこと。海のない綾瀬市で県内海産物の取扱いがあれば地域の皆さんが喜んでくれるという思いから県漁連に話を持ち掛け、実現に至りました。

以上の2つの事例はほんのちょっとしたきっかけから生まれた連携です。各々の行っている事業の枠にとどまらず、地域のことを考え、アクションを起こせば、共感してくれる組織・団体がきっとあるということをこれらの事例が教えてくれます。

J Aさがみ 藤沢産芋焼酎生産に貢献

寒川町にある三つの酒販協同組合と宮原コミュニティかわせみ運営委員会が共同販売する芋焼酎「かわせみの詩」の生産にJ Aさがみが原材料であるベニアズマの供給で協力し、100%藤沢産の芋焼酎を完成させました。

「かわせみの詩」は今年で7年目の発売となり、例年同委員会の所有する農園で毎年ベニアズマを生産していましたが、100%市内産で作れる収量がありませんでした。そこで、今回J Aさがみの組織経済部販売課へ相談したところ、すべて市内産で作ることができ、「第6ふじさわ観光名産品」にも認定されました。

業種そしてC o - ネットの枠を超えた協同組合間の連携も盛んになってきています。

※取扱い店舗等詳細はこちらのURLにアクセス！

<https://oishiifujisawa.jp/eventdummy/2126-2020-07-06-23-32-27.htm>

！



芋焼酎「かわせみの詩」
1本 1,580円

➤**新型コロナウイルス感染症による社会への影響が続いています。会員組織での困り事をはじめ、告知を希望する行事、提携事例等がありましたら下記までご連絡下さい。**

＜担当事務局連絡先＞

J A神奈川県中央会 J A改革対策部(担当：山本・丸岡)TEL 045-680-3002 jakaikaku@chu.kn-ja.or.jp

神奈川県生活協同組合連合会(担当：相田)TEL 045-473-1031 Yuji.Aida@ucoop.or.jp